

大分県北部地域産業における人材育成事業の指導支援活動

Advice and Assisting Activities on the Fostering employee Project for Industries in the Northern Area of Ohita Prefecture

宮田守次 技術士(金属部門)

1. 活動の概要

1.1 いきさつと本事業の目的

(財)大分県産業創造機構では、2009年より、大分県北部地域自動車関連産業の競争力強化を目的として、人材育成事業を推進することにした。筆者はそのためのQCサークル活動(改善活動)導入・推進の指導委託を受け、今日まで継続している。

2011年には自主的運営の「大分県QCサークル活動支援企業会(以下大分県QC企業会)」を組織化し、大分県の予算支援も受けて、実施してきた。

それらの経緯について紹介する。

図1に本事業の目的を示す。

1.2 推進組織と人材育成の主な実施事項

現在の推進組織である大分県QC企業会の組織とアドバイザーとしての筆者の関連を図2に示す。

発足時から、大分県は予算面からも積極的に支援してきた。推進事務局は中津市内の大分県立工科短期大学校企業連携・交流室とした。

大分県北部地域である中津市、宇佐市、豊後高田市、国東市のそれぞれの地域にある中小企業約100社余を大分県の担当職員と筆者は巡回訪問し、活動の目的・効果・参加・導入促進などの説明などを行ってきた。現在は67社が加入して活動を行っている。

おそらくこのような活動を支援しているのは、日本国内で唯一大分県のみであろう。これまでの主な実施事項は以下の通りである。

- ①QCサークル活動等のセミナー研修会の実施
- ②企業内セミナー向けの講師派遣
- ③年1回の総会の実施
- ④企業間の相互交流会の実施
- ⑤月例役員会の実施
- ⑥経営者・管理者対象の講演会実施
- ⑦QCサークル活動成果発表会の実施年2回
- ⑧情報ニュースの発行など。

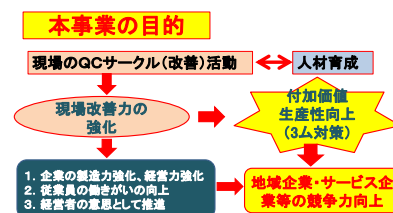


図1 本事業の目的

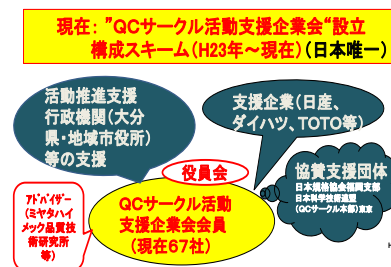


図2 現在の推進スキーム

2. 技術士として主体的に行った事項

筆者が主体的に4地域内中小企業の巡回アドバイスをを行った主な内容を示す。

- ①人材育成の必要性及び社内研修会・発表会の実施の説得のための企業巡回アドバイス
- ②大分県立工科短期大学校での集合研修会参加の呼びかけ
- ③遠距離である豊後高田市・国東市での研修会開催と出前講義
- ④各企業の社内発表会に出張“講評・アドバイス”の実施
- ⑤土曜日・日曜日を研修実施日にしての出前出講(平日は業務の為従業員を出せないため)
- ⑥企業内の見える化・生産性向上、製造技術の現場改善アドバイス

3. 技術的に高度な事項

3.1 統計解析や問題解決セミナー専用のテキスト執筆

レベル別、階層別の受講者の募集をして、それに適合した内容のテキストを執筆した。しかも工場現場の改革・改善に即役立ち、リーダーシップの向上も配慮した。

具体的なQC手法、統計解析の進め方、IE手法、VE手法、5S活動、なぜなぜ分析手法、創造性開発手法、見える化法、未然防止法など、その時々に応じた内容にした。

単なる高度な学理や理論だけではなく、より実践的でしかも、受講者が企業に戻って教えられるように、テキストの執筆と演習プログラムも工夫した。

3.2 苦労した点

グループ討議演習も取り入れ、リーダーシップ向上の演習も兼ねた方法とした。受講者が教わったことを自分の企業において実践し、現場の問題解決に適用して成果をだした改善事例を大分県立工科短期大学校講堂で行われる、年2回のQCサークル活動成果発表会で、企業代表として発表できるようにした。また主要企業の管理者および各役員は交互に、他企業の活動事例の講評も行い、また講演会講師も引き受けてもらった。これらにより、他企業との相互交流が出来、他企業の現場を知り、広い視野での、自社の改善能力アップにつなげることができた。

4. まとめ

10年以上の継続的活動により、この地域に現場力の強い中小企業群が形成され、会員企業の競争力向上及び各企業の管理者のレベル向上もできた。また若手のアドバイザー・講師陣容も育ち、次世代へのバトンタッチも出来た。

幸い、大分県立工科短期大学校では、日本のQC検定制度を活用し、学生だけでなく、大分県北部地域産業の中小企業従業員対象にQC検定受験の教育指導をしている。この地域のQC検定合格者数は、九州内でトップクラスとなった。

宮田守次 (みやた もりじ) ミヤタハイメック品質技術研究所 代表
連絡先: miyata@iris.ocn.ne.jp